



夏休みも終わりましたが、まだまだ暑い日々が続いていますね。熱中症などにならないように気を付けてください。さて、夏の特別展「Bones2 ほねほね運動会～はしる!とぶ!つかむ!～」の展示の一部を紹介します。9月23日(火・祝日)まで開催していますので、ぜひご覧ください。

「Bones2 ほねほね運動会～はしる!とぶ!つかむ!～」



カンカンとリンリン



絶賛開催中



何の頭かな?



さんちゃん

博物館からのお知らせ!!

東田ミュージアムパーク「子どもスクール」(後期)

全11回講座 会期 令和7年10月～令和8年3月

対象 小学5年生～中学3年生 締切 令和7年9月26日(金)

※原則毎回参加できる方に限らせていただきます。

※詳しくは「いのちのたび博物館」ホームページにアクセスしてください。

前期の様子



スペース LABO



いのちのたび博物館

KGG、安川電機
環境ミュージアム
でも実施します。

ミュージアムのタネ



ウナギを通して知る食物網の重要性

ニホンウナギ(以下、ウナギ)が環境省のレッドリストで絶滅危惧種に選ばれてから、今年で12年目になりました。ウナギは、西マリアナ海嶺付近の外洋域で産卵し、生まれた子どもが海流に乗って東アジアの生息域に運ばれてくるとい、一風変わった生活史をもっています。はじめのうちはレプトケパルスという葉っぱのような形をしていますが、いよいよ沿岸に近づくとシラスウナギと呼ばれる細長い形へと変わり、その後我々の見慣れたウナギ色になります。ウナギの養殖はこのシラスウナギを集めて育てる方式で行われていますが、シラスウナギの採れる量(数)は60年ほどの間ずっと減りつづけてきました。この冬は最近の年の中ではたくさんのシラスウナギが採れましたが、それでも60年前と比べてみると決して多いとは言えません。ウナギを増やしていくためにはどうしたらよいのでしょうか。

ウナギが減った理由の特定は難しく、いくつかの説がありますが、この中に「生息環境の劣化」があります。最近の研究によって、ウナギは隠れ家がたくさんあるほど、太っていることがわかりました。また、山林の豊かな川と、そうでない川で採れたウナギを比べたところ、豊かな川ではより多様な生物を食べており、太っていて成長もよいことがわかりました。ウナギは、片道3千キロメートルにも及ぶ長旅の末、産卵しますから、産卵に成功するためには旅を始める前にじゅうぶんな体力をたくわえておく必要があります。また、太っている個体はより質のよい卵をより多く作ることができることから、太っている個体の割合が増えることはウナギの数の回復につながると考えられます。

日本列島を含む東アジアでは、ウナギの生息の場である水路や川、干潟といった環境が大きく改変され、ウナギの住みにくい環境に変わってきました。今後、より住みやすい環境を回復させていくことで、日本列島に帰ってくるシラスウナギの数も増えていくかもしれません。



ガラス瓶の中を泳ぐシラスウナギ。体は透明で目や骨が透けて見えている。

自然史課学芸員 日比野 友亮